

# 大分県が多胎育児アンケート報告書



2021年9月

オンラインコミュニティ

大分のママ集まれ！多胎児ママサークル

目次

1. はじめに	1
2. 回答者について	2
3. アンケートから見える多胎育児の困りごと	4
(1)多胎育児のサポートメニューの使いにくさ	4
(2)情報収集の困難さ	7
(3)多胎育児経験者との繋がり必要性	8
(4)多胎育児に関する社会の理解不足	11
4. 4つの困りごとに対する提案	15
5. おわりに	17
資料編 (別冊)	
(1)アンケート集計結果	
(2)アンケート	

# 1. はじめに

日本の出生率が低下する中、不妊治療の普及とともに多胎出産の割合は増えており、総出産件数の約1%を占めるといわれています。年間約8000人が生まれる大分県内でも、毎年約80人の多胎児が生まれているという計算になります。

多胎育児は、オムツ換えや授乳等、24時間途切れることのない世話に追われ、寝不足が続く母親は、心身ともにギリギリの状態が続きます。また、多胎出産は、早産や低出生体重、障がいを伴うことも少なくなく、補乳力も弱いため授乳・ミルクに時間がかかるなど、想像以上にストレスを抱えるケースも多く、残念なことに、虐待も単胎児の2.5～4.0倍といわれています。

一般的に、「多胎の妊娠や育児は想像以上に大変」と言われてはいましたが、多胎育児真っ最中の当事者は声を上げる余裕もなく、これまで、大分県内の多胎育児経験者の具体的な声は、数値として可視化されていませんでした。

そこで、オンラインコミュニティ「大分のママ集まれ！」内の「多胎児ママサークル」では、まずは実態を示すことが必要と考え、SNSを中心にアンケート調査を実施いたしました。令和3年6月17日～7月31日という短期間でしたが、130名もの方々にご回答いただくことができました。多くの方が忙殺される育児の合間をぬって丁寧にご回答くださり、貴重な情報を得ることができました。回答して下さった皆様、シェアやお声かけをして下さった皆様、本当にありがとうございました。アンケート結果から、多胎育児の現状が分かり、情報収集の困難さ、今あるサポートをどのようにすれば活用していけるか、ピア（仲間）とのつながりの必要性などの課題があきらかになりました。ここに、皆様の思いを込めて、アンケート結果をご報告させていただきます。

多胎育児のサポートが充実することは、単胎児や障がい児など全ての育児環境の改善にも通じると思います。今回のアンケート結果を契機として、社会全体で多胎育児の実情に理解を深めていただき、更なる「子育て満足度日本一の大分県」実現に活用していただければ幸いです。

## 2. 回答者について

回答者の内訳（多胎児の年齢別・市町村別）			（質問1～3）															n=130
多胎児の年齢	回答者数	割合	回答者の居住地の内訳															
			大分市	別府市	中津市	日田市	佐伯市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後高田市	宇佐市	由布市	国東市	日出町	九重町	玖珠町	
0～1歳	39	30.0%	8	2	4		10		2		1	7	2	2	1			
2～3歳	20	15.4%	13	1	2		2						1				1	
4～6歳	16	12.3%	10	1	0	1	2	1		1								
<b>現・乳幼児計</b>	<b>75</b>	<b>57.7%</b>	31	4	6	1	14	1	2	1	1	7	3	2	1	0	1	
小学生	17	13.1%	11	1	1		2	1				1						
中学生	12	9.2%	5	1			3					1			1	1		
高校生	7	5.4%	5				1		1									
18歳以上	19	14.6%	10	1	1		5	1	1									
<b>現・小学生以上計</b>	<b>55</b>	<b>42.3%</b>	31	3	2		11	2	2	0	0	2	0	0	1	1	0	
<b>合計</b>	<b>130</b>		62	7	8	1	25	3	4	1	1	9	3	2	2	1	1	

※うち、0～1歳児と小学生の複数回答者は、0～1歳児にカウント

※うち、男性回答者は10名

■県内15市町に住んでいる多胎育児経験者130人から回答を得た。

■育児の時期・時代によって制度等が異なり、アンケート結果に大きく影響することから、集計・分析は、現在乳幼児の多胎児を育てている親75名、現在小学生以上の多胎児を持つ親55名の2グループに分けて行った。

■特に困りごとが多い現・乳幼児の育児を担う回答者の声を中心に報告書をまとめた。

## 2. 回答者について（身近なサポートの状況）

### ■父親の育休取得状況（質問4①）

現・乳幼児の父親は、16%が育休を取得している。

育休を取得しなかった理由としては、収入の減、会社の理解・職場への遠慮、夫自身の気持ち、里帰り出産のため必要ない等があった。

また、父親が育休を取得したケースでは、母親が出産に伴う病気や産後鬱のため取得せざるをえなかったという回答もある。

育休取得のメリットとして、父親が育児の大変さを実感することで、その後も良い連携が取れているという意見もあった。



### ■日常的に育児をサポートしてくれる人（質問4②）

現・乳幼児の親73.3%が「有り」と回答しており、その内訳は、①祖母（母方）47.8%、②祖父（母方）15.6%、③祖母（父方）12.2%の順となっている。

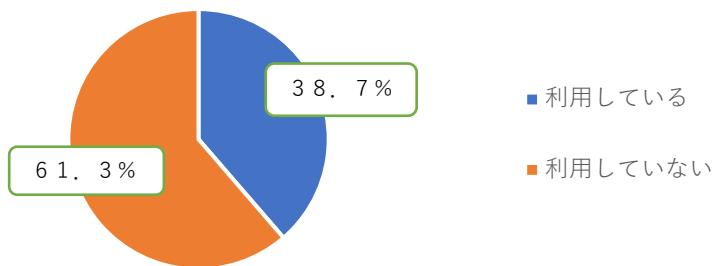
母方の祖父に頼る割合は、現・小学生以上の親よりも高い傾向にある。

日常的にサポートしてくれる人（多胎児からみた関係）（複数回答可）

	現・乳幼児		現・小学生以上	
	件数	割合	件数	割合
祖母(母方)	43	47.8%	34	44.2%
祖母(父方)	11	12.2%	21	27.3%
祖父(母方)	14	15.6%	10	13.0%
祖父(父方)	6	6.7%	7	9.1%
叔父叔母	4	4.4%	3	3.9%
伯父伯母	1	1.1%	1	1.3%
その他	11	12.2%	1	1.3%
計	90		77	

### 3. アンケートから見える多胎育児の困りごと (1)多胎育児のサポートメニューの使いにくさ

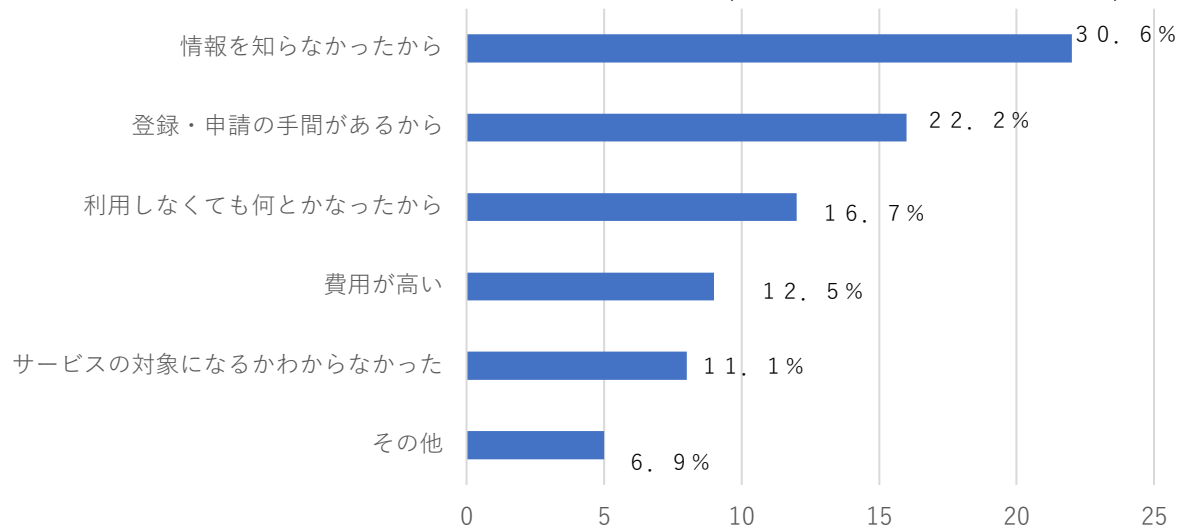
質問5. 育児支援サービス（民間・行政）の利用状況  
(現・乳幼児75件の回答)



■民間や行政の育児支援サービスを利用しているのは、約4割にとどまっている。

■サービスを利用していない理由は、①情報を知らなかった(30.6%)、②登録・申請の手間があるから(22.2%)、③利用しなくても何とかなったから(16.7%) ④費用が高い(12.5%) また「その他」の理由として「他人に子どもを任せる抵抗感」が数件見られた。

質問5②. サービスを利用していない理由（複数回答可）  
(現・乳幼児72件の回答)



■子育てほっとクーポンについては、8割程度活用しており、おむつやミルク購入への利用を歓迎する声も多い。一方、仕組みを把握する余裕もないまま期限が過ぎてしまうケースなどもあった。（質問5③）

■多胎児向けサロンや教室があった場合、88%が「参加を希望する」など、多胎育児経験者(ピア)とのつながりを求める声も多い。（質問5④）

■多胎育児中の母親は、心身ともにギリギリの状態、自ら情報収集する時間的・精神的・肉体的余裕が無いことを、サポート提供側には理解し運用を工夫してほしい。



# 子育て支援サービス利用者の声

## 子育てファミリーサポートセンターについて

双子を産んで間もなく、実母が大病を患い、長期の治療と幾度かの入院を余儀なくされました。義父母も高齢で私自身きょうだいがいけません。「頼みの綱の母に頼れない以上、今後サポートしてくれる人が必要だ」と思い、ファミリーサポートセンターの利用を考え、問い合わせました。

利用には事務局への来所が必要だといわれました。

子どもはようやくつかまり立ちを始めた頃で、ミルクや離乳食の準備、洗濯などの家事に追われ、あっという間に一日が過ぎていく忙しさの中、自分1人で2人を連れて外出をするのは容易ではありません。だが行かなければ何も始まらないと思い、何とか出向きました。

しかし、行って話を聞いてみると、サービスを開始するまでに利用者と協力者のマッチングが必要で、センターの事務局や最寄り子どもルームなどで何度か顔合わせをしないといけないとのこと。しかも病児は預けられないといいます。「双子育児で特に大変なのは病気の時なのに…」。

わらにもすぎる思いで行った先で突き落とされた気がしました。手続きの煩わしさや支援を受けるまでのハードルの高さを痛感。なんとか登録はしたものの、いまだ一度も利用していません。



## あったかハート駐車場について

多胎の外出は、妊娠時からほとんどが車移動せざるをえません。複数の乳幼児を抱え、大荷物を抱えた移動には、双子用ベビーカーを使うことも多く、安心して利用できる広い駐車場があることは、とても重要です。

あったかハート駐車場は、妊娠5ヶ月めから電子申請も可能となり、手続きしやすくなっていますが、利用期間は産後3ヶ月まででなく3歳児くらいまで利用できるように延長してほしいです。

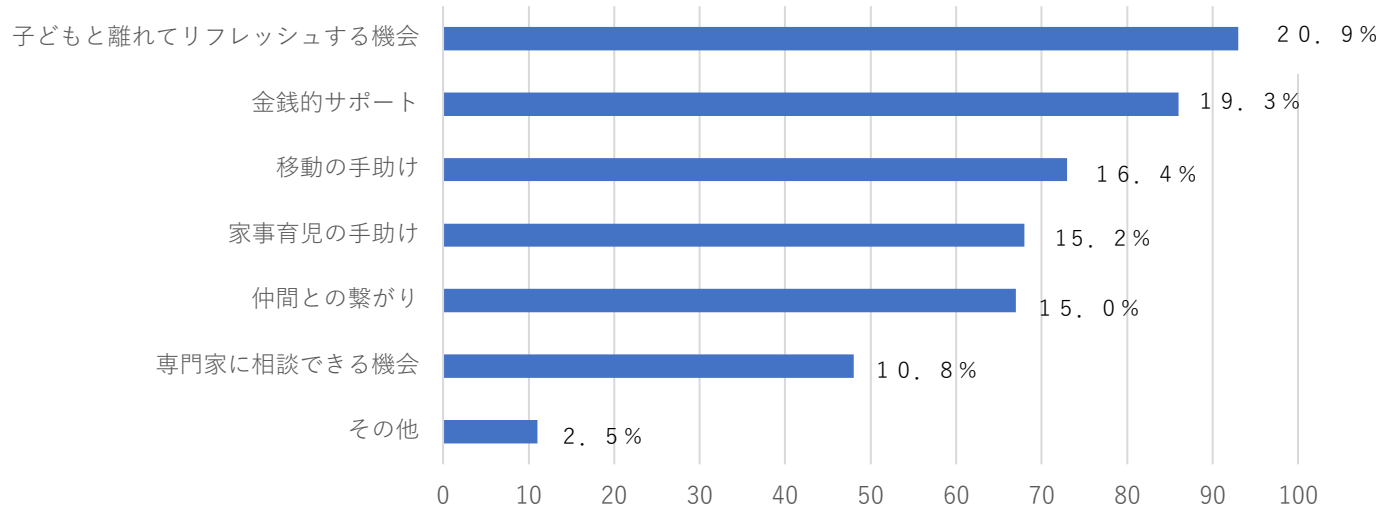
## 助産師のサポートに心身ともに助けられた

多胎育児は、抱っこをしすぎて腱鞘炎や腰痛、膝痛等全身の関節の痛みを引き起こしやすいことや、初産ということもあり乳腺炎の対処法等、母体のトラブルについて事前の知識はありませんでした。また、産後の忙しさの中、自分の体のケアに時間をかける余裕も無かったです。

哺乳力が弱く「母乳がうまくあげられない」と悩む中、乳腺炎になってしまい、我慢できずネットで検索して、出張おっぱいマッサージしてくれる助産師と繋がることができました。いろんな相談にも乗ってもらうなど、心のケアにもつながりました。

多胎は、総合病院で出産するケースが多いので、出産前から頼れる近くの助産師を調べておき、母親自身の心身のケア時間を確保できるよう、事前の情報収集や準備をしておくことが重要と感じています。多胎育児は、特に外出しにくいいため、出張サービスの充実や補助、積極的な情報発信をしてほしいと思います。

## 質問6. 乳幼児期の多胎育児にほしいサービス、サポート（複数回答可）（全回答者446件の回答）



乳幼児期にほしいサポートとして、

- ①子どもと離れてリフレッシュする機会
  - ②金銭的サポート
  - ③移動の手助け
  - ④家事育児の手助け
  - ⑤仲間との繋がり
  - ⑥専門家に相談できる機会
- の順となっている。

### ■子どもと離れてリフレッシュする機会について

NICUへ入る多胎児は7割を占めており、母親と子どもそれぞれの退院時期がずれる場合も多い。産前からの長期入院で母体の体力は低下しているうえに、毎日搾乳や子の世話を病院へ通い、多胎児退院後も引き続き、子の世話に追われ、自分自身の体のことは二の次になっている母親も少なくない。せめて数時間で良いので、つきっきりの育児から解放され、休養や気分転換をとることが、育児を前向きに行えるきっかけとなる。

### ■金銭的サポートについて

多胎妊娠を想定外に突然告げられることが多く、予測して貯金をしておくのは困難。自身の体調管理も難しいため、仕事との両立を諦め、短時間勤務を選んだり離職するなど、収入面でも不安定な状況になるケースも多い。

### ○妊婦検診について

多胎妊婦は妊婦健診で自費でノンストレステストを受ける機会は単胎児の妊婦より多くなる傾向がある。「普通に健診にいくと4~5回くらいは手出しが発生する」「補助券が単胎児と多胎児が同じ枚数なのは理解できない」「県外では多胎児の場合、追加で妊婦健診の補助券を貰えるが、大分では無いと聞いて驚いた」などの声があった。

### ■通院などの移動、家事育児の手助けについて

日常の家事や多胎育児、移動に対する困難さを多くの親が感じており、各児の成長に合わせた日々の散歩や外遊び、健診や病気等での通院時に、サポートを望んでいる。

特に、多胎児は病気をうつしあい、同時もしくは順番に病気になることが多い。また、治療や療育等で頻繁に通院するケースも多い。

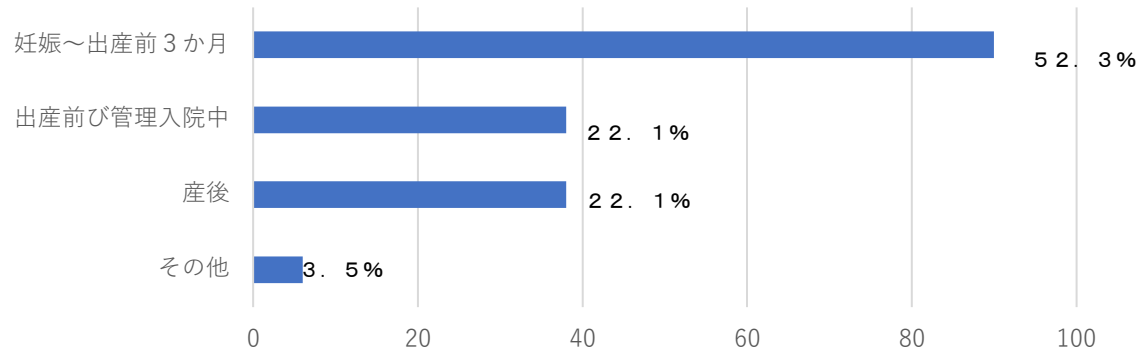
訪問型サポートの制度もあるが、病児だから、多胎だからと断られることも少なくない。

多胎児を大人一人で見るのは根本的に手が足りない。サポートしてくれる人がいることで、スムーズかつ安全な移動が可能になるだけでなく、孤立感やストレスの緩和につながる。



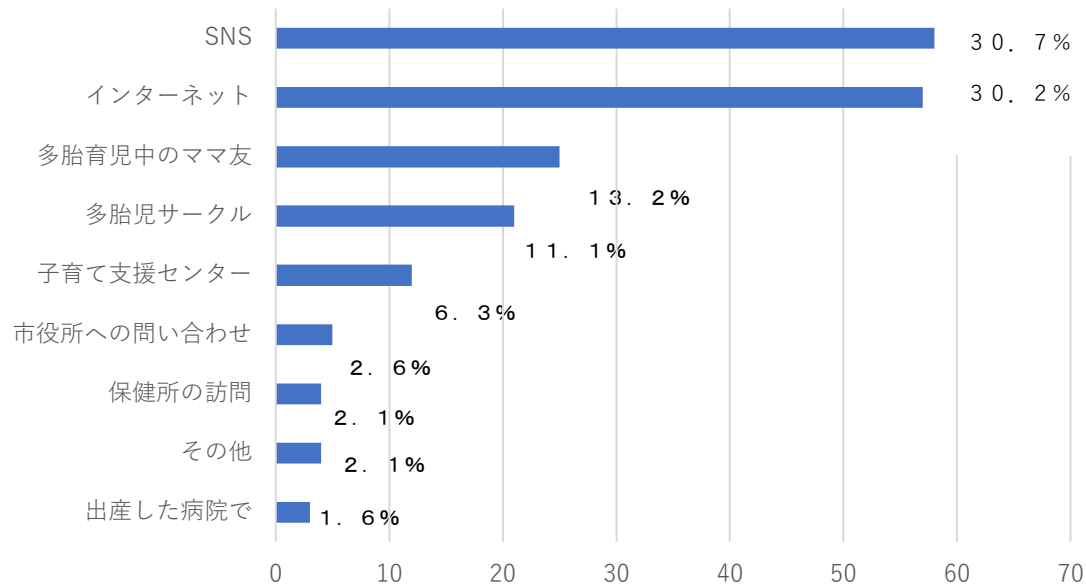
### 3. アンケートから見える多胎育児の困りごと (2) 情報収集の困難さ

#### 質問 7. 多胎支援や子育て支援に関する情報が欲しいタイミング（複数回答可）（全回答者172件の回答）



- 全体の74%以上が出産前に情報がほしいと回答している。
- 産後は情報収集の余裕すら無い状況を訴える声が多数あった。
- ただし、実感のない段階では情報が記憶に残らないため、様々な機会に、繰り返しの情報提供を望む意見もあった。

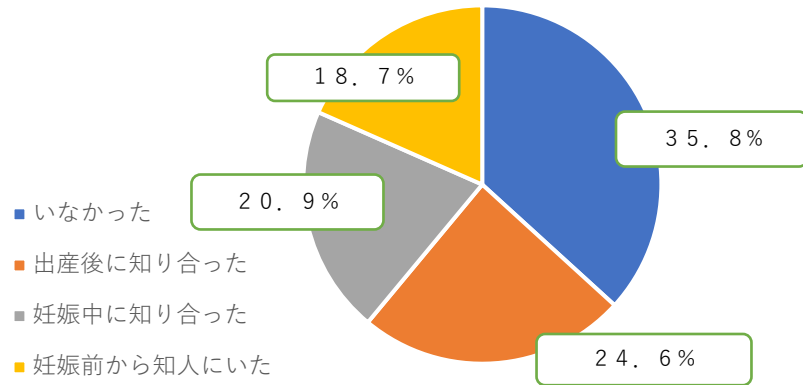
#### 質問 8. 多胎育児に関する情報収集方法（複数回答可）（現乳幼児189件の回答）



- 情報収集方法は、SNSやインターネットが60.9%、多胎児のママ友や多胎児サークルが24.3%となっている。（質問8）
- 乳幼児期に欲しい情報は、①外出しやすい場所、②多胎育児ならではの悩み相談、③支援サービス、④仲間づくりの情報などを求めている。男性回答者からも父親同士の仲間づくりを希望する意見があった。（質問9）
- 多胎育児の大変さは、経験者でないと理解を得られにくいと感じている母親は多く、多胎育児経験者の声を頼りにしていることがわかる。（質問9①）
- 情報発信のツールやタイミング、発信内容が、母親のニーズと合致すると、サービスの利用率が上がる可能性も考えられる。

### 3. アンケートから見える多胎育児の困りごと (3)多胎育児経験者（ピア）との繋がり的重要性

質問10. 多胎育児の経験者は身近にいましたか。 (全回答者134件の回答)



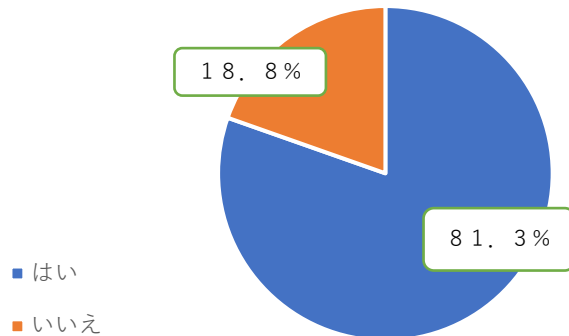
■多胎育児の経験者が身近にいなかった人は約36%。

■うち約80%が『いたら違った』と感じている。

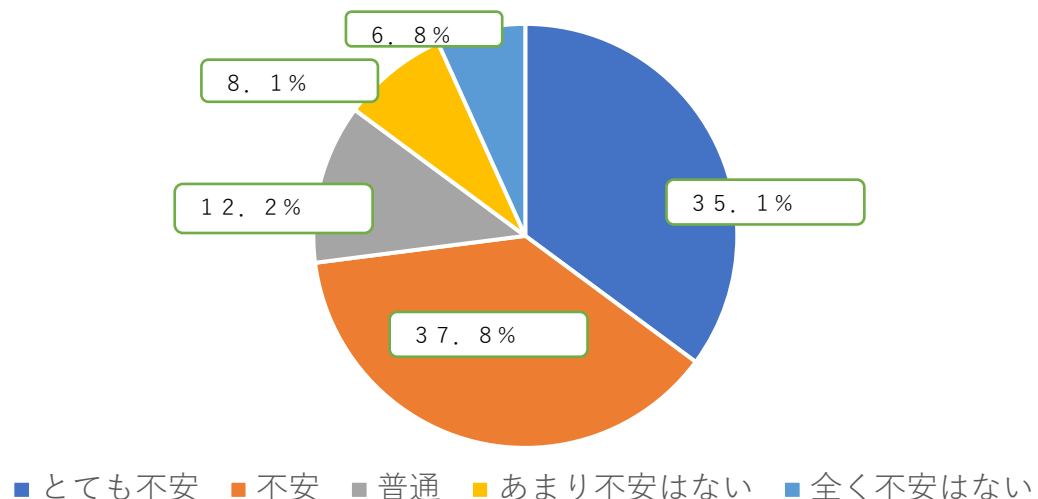
■「経験者が身近にいたら違った」理由として、多かった意見

- ・心強いから
- ・自分自身の支えになってたと思う。
- ・心構え 理解者
- ・もっと情報を共有したり同じ悩みを共有できたと思う
- ・便利な情報、行政支援の情報など知れたかもしれない
- ・育児のすべての事に関して苦しかったので、経験者のママの話参考にしたかった。

質問10① 『いなかった』方へ質問です。いたら違ったと思いますか。(48件の回答)



質問 1 1. 妊娠中から乳幼児期の多胎育児に対する不安の度合いを教えてください。（現・乳幼児74件の回答）



■多胎育児に関して、妊娠中から不安を抱える人は多く、72.9%が「とても不安、不安」と答えている。

質問 1 2. 乳幼児期に不安なことはなんですか。（複数回答可）

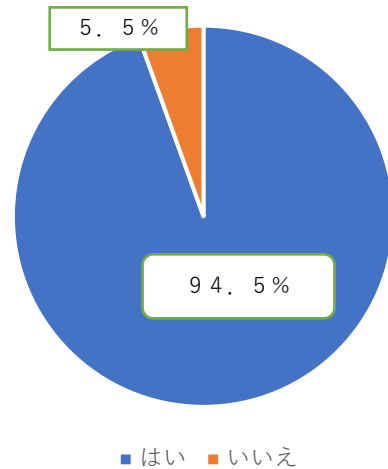
	現・乳幼児		現・小学生以上	
	件数	割合	件数	割合
多胎育児の負担への不安	50	21.6%	31	18.6%
多胎児の健康状態	41	17.7%	38	22.8%
金銭面の不安	40	17.2%	30	18.0%
仕事との両立の不安	26	11.2%	22	13.2%
夫婦のメンタルヘルス	34	14.7%	13	7.8%
上の子のケア	21	9.1%	18	10.8%
夫婦の健康	14	6.0%	10	6.0%
その他 ※	6	2.6%	5	3.0%
計	232		167	

■現在乳幼児を持つ親（282件）の、乳幼児期に不安なことは、

- 1位：多胎育児の負担に対する不安
- 2位：多胎児の健康状態
- 3位：金銭面の不安
- 4位：夫婦のメンタルヘルスに対する不安

■夫婦のメンタルヘルスに対する不安については、現小学生以上は7.8%、現乳幼児は14.8%と約2倍になっている。男性の家事・育児参画が以前よりも進んでいるといわれる半面、父親や夫婦間の精神的サポートにも留意が必要である。

質問14. 自分より後に多胎育児をする親子の役に立ちたいと思いますか。(全回答者127件の回答)



■ 『多胎育児をする親子の役に立つために、整備してほしいことは何ですか?』という質問に対し

《望むこと》

- ・多胎児サークルやSNSの交流サイトなど出会いの機会
- ・多胎家庭と支援者とのマッチングなどの整備
- ・どうすれば役に立てるのかを知りたい

《多胎育児の経験者としてできるサポート》

- ・移動や家事のサポート
- ・話し相手

など

■ 多胎育児をする親子の役に立ちたいと思っている人は、全回答者の94.5%。

多胎育児経験者は、不安や大変さを実感していることもあり、多くの方が、今後多胎育児をする人の力になりたいと思っていることがわかる。

■ ピアとのつながりの必要性について

多胎育児は情報が不足しがちであり、当事者同士でないと理解しにくい部分がある。また、単胎児の親との交流の場合、多胎家庭がかえって孤立感を深めてしまうことがある。

特に、妊娠中からのピアとのつながりは、実際の多胎妊娠や出産、育児経験に基づいた知識や情報を得ることができ、育児のイメージがつきやすくなり、多胎育児の不安、ストレス、孤立感といった精神的負担の軽減に直結する。

さらに、産後も継続して関わりを持つことで、発達段階に応じた悩み相談や仲間づくりが期待できる。

父親からも、「先輩パパの体験談を聞きたい」等の意見もあるなど、男女問わず必要なサポートといえる。

### 3. アンケートから見える多胎育児の困りごと (4)多胎育児に関する社会の理解不足

- 今回のアンケート結果を基に、次のページに多胎育児の困りごとを4つの側面で整理した。
  - ①子どもの成長面、②自身の肉体的疲労、③精神的疲労の面では、『想像以上に大変だった』という、長文での切実な記述が多数寄せられた。
    - 身近な協力関係にある家族とも、疲労や精神的ストレスから、家庭内不和に至ることもめずらしくない。
    - さらにそれを増大させる要因として、④社会的側面もある。
  - 情報や育児サポート、外出先のハード整備、仲間作りの機会など、社会システムの不足を訴える声が多い。さらに、専門家を含む周囲からの心無い一言（社会の理解が薄い）に傷つき、一人で抱え込んでしまうという悪循環もみてとれる。
- 多胎育児は、子ども自身のことや、親の身体的・精神的負担、さらには、社会の理解や仕組みなどの様々なリスク要因が重なり合うことが多く、多胎児家庭の虐待死のリスクは単体児家庭の2.5~4.0倍といわれている。



## 多胎育児の困りごと4つの側面

### ①子どもの側面

複数の同年齢児、成長発達の差、生活リズムのズレ（授乳、てい泣、睡眠リズム）、応答性の違い、低体重・早産児、障がいの有無、けんか 等

### ②親の身体的側面

産後の体力回復の遅れ、睡眠不足、疲労蓄積、生活習慣の乱れ、健康保持低下、乳腺炎、腰痛・自身の病気治療を後回し 等

### ③親の精神的側面

育児不安、緊張感、自分を責める、イライラ・ストレス、思いを共有できない、孤独・孤立、引きこもり、家庭内不和 等

### ④社会的側面

情報不足、サポートの不足（人手・制度の使いにくさ等）、外出困難（外出先のハード未整備）、仲間づくりの機会が少ない、社会の理解・専門家の理解が薄い、経済的負担、コロナで交流しにくい 等

質問15. 多胎育児をして、感じたことをご記入ください。(全回答者109件回答) (一部抜粋)

### 《①子どもの側面》

- ・一人が泣けば、つられてもう一人なく。同時にミルクをあげたり、順番にミルクをあげたり、24時間休む間もなくず〜っとミルクやオムツ交換をしている状態。
- ・小さく生まれるので、哺乳力も弱く通常よりも時間がかかる。
- ・子ども同士が病気を移し合うので、時間差で病気になる。
- ・成長や発達もそれぞれ違う。障がい児と健常児を同時に育てる難しさを感じた。



### 《②親の身体的側面》

- ・寝る暇も、食べる暇もない。
- ・育児が2倍になるのではなく、2乗される状態。体力が奪われる。
- ・助産師の出張おっぱいマッサージ等、訪問支援メニューを充実してほしい。

### 《③精神的側面》

- ・不安や孤独から、産後鬱を発症。
- ・あまりの忙しさにイライラして、上の子に辛く当たってしまった。
- ・夫や両親など家族にあたることもあり、家庭内不和が続いた。
- ・メンタル面でギリギリだった。協力してくれる夫の体も心配だった。
- ・家にいるくせに家事もまともにできないと自分を責める。
- ・今まで簡単にできていたことができなくなり、時間がかかることが多く、息が詰まったり、いつも気が張っていた。
- ・子どものイヤイヤ期の保護者に対するメンタルケアがあると良い。
- ・先輩パパの体験談なども聞きたい。

### 《④社会的側面》

- ・コロナでますます交流機会がなくなっている
- ・大変なことが周りの人に理解されないことが辛い。
- ・他人の何気ない言葉に傷つけられることが多い
- ・「双子は全てが一回で終わる。年子の方が大変」と言われ傷付いた。
- ・専門家でも特に年配の方から「お母さんなんだから頑張りなさい」と精神論で励まされるのが辛い。
- ・同じ月齢の小さい三人連れの外出は準備も大変。したくても難しい。
- ・外出先のトイレや通路、エレベーターなどがツインベビーカーに対応していない広さであることが多い。
- ・買い物もベビーカーが通れず、荷物を持ったら子供を2人も抱えられない。
- ・あったかハート駐車場は、多胎児の利用期間を伸ばして欲しい。
- ・ファミリーサポートも登録等に複数回出向かなければならないため断念した。
- ・出費もすごい。3日で1缶のミルク。それにオムツ。
- ・単胎児より妊婦検診の回数が多く、少し多めの補助もあるが、とても足りない。
- ・子供1人に対する設備や料金設定が基本なので、多胎児や年子への配慮が欲しい。
- ・特に進学時は、全てが三人同時に進んで行くので、共働きでも金銭的に厳しい。
- ・保育園に入ろうと思ったら二枠は難しいと言われる。多胎育児の精神的体力的負担、虐待防止を考えれば優先的に入園できるように改善できないか。



- 一方、多胎育児が『楽しい、幸せ』という声も、多く寄せられている。ポジティブな情報発信もまた、重要である。



#### 《ポジティブ意見》

- ・何倍も幸せを貰えた
- ・大変な事は2倍ですが、可愛さは2倍以上です！双子の親になれて本当によかったと思います。
- ・ふたごさいこーう！ふたり産めてよかった！おんぶにだっこで買い物する時に振り向かれると、私は双子のお母さんだぞ！と心の中でいばってます。
- ・このようなアンケートで多胎児が大変と思わせることが、妊娠、出産、育児を不安にさせると思います。ネガティブな意見ばかり伝えて行くのは間違いだと思います。

多胎児を育てる親達にとって、誰かに少しでも手助けしてもらえたり、温かく声をかけてもらうことが、大きな負担軽減につながります。

多胎育児に対する社会の理解が深まることが、『多胎育児は大変なこともいっぱいあるけど、それ以上に楽しい、幸せ』との声が増えてくることにつながります。

# 4. 4つの困りごとに対する提案

## ① ニーズに合った多胎育児サポート制度の拡充

- ・ 各種手続きの簡素化（出生前申請、オンライン申請）
- ・ 育児サポートの充実  
（大分あったか・は一と駐車場の利用期間延長、多胎児割引等の料金設定等）
- ・ 出張訪問支援の充実  
（産後ケア、病児のサポートや訪問看護、出張おっぱいマッサージ、ホームスタートなど）
- ・ 妊婦検診費用の完全助成
- ・ 保育所入所や病児保育などの基準に多胎児要件を上乗せ



訪問サポート

## ② 情報発信のツール、タイミング、発信内容の改善

- ・ SNSを活用した行政の情報発信の強化
- ・ 様々な機会を活用した繰り返しの周知  
（母子手帳交付時、管理入院中、出産後の全戸訪問時等）
- ・ 多胎育児に特化した情報発信（多胎育児用副読本の配布）
- ・ 多胎育児に特化した学びの提供（プレパパママ講座、祖父母講座）



### ③多胎育児経験者（ピア）とつながるしくみづくり

- ・多胎育児経験者によるSNSを活用した相談窓口の設置
- ・多胎育児経験者とつながる交流機会の創出（リアルやオンラインでの交流会など）
- ・気軽に頼れるピアサポート事業の実施
- ・ピアサポーターの養成
- ・NPO等の多胎児サークル活動に対する支援  
（研修機会の提供、活動経費助成、情報発信協力など）



### ④多胎育児に対する社会の理解促進

- ・専門家への研修（保健師、助産師、子育て支援機関職員等）
- ・外出しやすいハード面の環境整備（駐車場や通路など）
- ・多胎育児の大変さだけでなく、すばらしさ、楽しさも併せて発信





## 5. おわりに

今回、大分県で、130名（乳幼児期75名、小学生以上55名）もの多胎育児経験者にアンケートへご協力をしていただくことができました。

多忙な育児の合間をぬって、たくさんのリアルな声をお寄せいただき本当にありがとうございました。

アンケート結果から、多胎育児の切実な現状が分かり、情報収集の困難さ、社会の多胎育児に対する理解不足などの課題があきらかになりました。また、ニーズにあったサポート制度の拡充やピアとのつながりといった多胎児家庭が必要としている支援のあり方も見えてきました。

今回のアンケートを通して、多胎育児の現状を社会の人たちに理解していただくことで、大分県が多胎児家庭だけではなく、全ての子育て家庭に優しく、子育てしやすい環境が充実するきっかけとなったら幸いです。

『大分のママ集まれ！多胎児ママサークル』としても、今回のアンケート結果をホームページに掲載するとともに、今後もSNSを中心に多胎育児に役立つ情報やママたちの声を発信しながら、サークル内のオープンチャットや、オンラインお茶会（交流会）、オフ会開催など、できることから取り組んでいこうと思います。



## ○大分のママ集まれ！とは

大分のママたちの毎日がもっと楽しく、  
もっと豊かになるための、情報発信と  
出会いの場の創出を行うオンライン  
コミュニティです。

2020年4月、大分のママたちによって立ち上げ、有志のマ  
マたちの手で運営しています。

コミュニティ内で8つのサークル（乳幼児ママ・小学生マ  
マ・思春期ママ・おとな女子・多胎児ママ・ステップファ  
ミリーママ・県外出身ママ・英語好きママ）を展開。子ど  
もの年齢や家族構成、興味関心など、共通点のあるママや  
女性と繋がることができます。

《大分のママHP》



## ○多胎児ママサークルとは

「大分のママ集まれ！」の中のサーク  
ルの1つで、「多胎育児」を通じて、  
お友達を作りたい！

多胎育児について相談したい！

多胎育児の喜びを分かち合いたい！

多胎子育てに役立つ情報をGetしたい！

後輩多胎ママの助けになりたい！

そんな多胎児ママたちの繋がり  
で、ママの願いを叶えら  
れるサークルです。

LINEのオープンチャット、オンラインお茶会やオフ会  
などで交流しています。

HP : <https://mama-atsumare.com/oita/>

Instagram :

<https://www.instagram.com/oita.tatai.mom/>



双子、三つ子等のお子様がいっぱいママさんたちへ  
九州のママ達と繋がることができます。  
お悩みを相談したり情報交換したり楽しく交流しましょう♡

多胎児ママサークル

大分のママ集まれ！

2021年9月

オンラインコミュニティ **大分のママ集まれ！多胎児ママサークル**

田中舞（多胎児ママサークルリーダー）／本室朝美（大分のママ集まれ！代表）／二ノ宮朋恵（ともえ助産院院長）